

東ティモールの 高校生来訪歓迎

伊那

2020年東京五輪・パラリンピックで海外の選手らと地域住民が交流する「ホストタウン」構想で、伊那市の相手国となっている東南アジアの東ティモールの高校2、3年生計10人が6日、同市



伊那市民の歓迎に感謝し、歌を歌う東ティモールの高校生ら

東京五輪のホストタウン相手 そば打ちや企業見学

を訪れた。市は入村式を市役所で開き、一行を出迎えた。高校生たちは温かい歓迎に感謝。8日まで市内に滞在し、そば打ち体験や企業見学をする。

電気や水道工事で学生ボランティアを派遣するなど同国と関わりの深いサレジオ工業高専（東京）が、主に科学技術分野で交流を深めてほしいと、一行を招いた。3日に来日し、11日まで自動車工場の見学、着付けや茶道の体験などをする計画だ。

同高専は伊那市が東ティモールのホストタウンになったことや、同市高遠町出身の北原巖男さん（70）＝東京＝が駐東ティモール特命全権大使だった縁で訪問先に選んだ。

入村式で白鳥孝市長は「伊那の冬を楽しみ、帰国したら伊那の魅力を発信してほしい」とあいさつ。農家民泊で生徒たちを受け入れる5軒の市民が自己紹介し、生徒らはお礼に同国の歌を歌った。現地のテトウン語で「母親」は「イナ」と発音することも紹介された。ボスコ・グテレスさん（17）は「日本の暮らしを体験できるのが楽しみ」と話していた。